

国指定文化財<史跡>

きくちじょうあと
鞠智城跡

指定日 平成16年2月27日

所在地 菊池市木野 堀切



鞠智城は菊池市木野、山鹿市菊鹿米原台地にある朝鮮式古代山城である。南の城門「堀切門」や「深迫門」は菊池市に所在する。

白村江の戦い(663年)で新羅と唐の連合軍に敗れた日本は新羅の侵攻に備え、大宰府の防備として665年に「大野城」^{おおのじょう}「基肆城」^{きいじょう}を築城させた。

『続日本紀』の文武2年(698)5月条によると、「大宰府をして大野・基肆・鞠智の三城を繕い治めしむ」とあり、鞠智城が他の2城と同じ時期に築造されたことを伺わせる。

城は周縁部と土塁で囲まれた内城からなり、総面積120haの「包谷式」山城で、大宰府への^{へいたん}兵站基地と考えられる一方で、南九州の勢力を牽制する押さえの城との見方がある。

県の発掘調査で城の中心部である「長者原」地区で72棟の建物跡が発見され、八角形の鼓楼や兵舎、米倉が復元され、国営公園化に向けて更なる整備・活用が進められている。